

科目名称：	子どもの音楽表現演習Ⅲ	
担当者名：	上野 高裕	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
「子どもの音楽表現演習Ⅰ」「子どもの音楽表現演習Ⅱ」で培った技術を基礎として、一人ひとりの実技演奏力がより向上・発展するように個人指導で授業を行う。様々な音楽表現活動が保育現場で即実践できるようにする。		
授業の達成目標・到達目標		
1. 子どもに語りかけるように歌ったり、弾いたりすることが出来る。 2. 子どもたちの歌を導いて、感情を豊かに表現することが出来る。 3. 様々なジャンルのピアノ独奏曲や保育の歌に挑戦し、レパートリーを広げる。		

幼児教育学科		ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。		
DP(2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。		○
DP(3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。		

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)		90		10	100
幼児教育DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容１》	《経験年数１》
	《内容２》	《経験年数２》
	《内容３》	《経験年数３》
	《内容４》	《経験年数４》
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
ピアノ演奏技術	テンポ、リズムが正しくミス無く暗譜で弾くことが出来、子どもの発達に対応できる技能を持っている。	テンポ、リズムが正しくミスがあまり無くほぼ暗譜をして弾くことができる。	テンポ、リズムが少し乱れるが大体楽譜を見て弾くことができる。	練習不足でミスが多いので、曲の途中で止まらないように努力を要する。
弾き歌い技術	発声がしっかりしていて、音程が正しく十分な声量があり、伴奏の技能が高められている。	音程がほぼ正しく十分な声量がある。伴奏が工夫されている。	音程がほぼ正しいが声量がやや少ない。伴奏が工夫されている。	小さい声でも歌える様に努力を要する。
受講態度	授業に向けて良く練習しており、とても積極的に取り組んでいる。	授業に向けてほぼ練習しており、積極的に取り組んでいる。	授業に向けてほぼ練習している。	授業に向けて練習し、態度やことば遣いが出来る様に努力を要する。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間
第1回 春休み課題の確認	春休み課題の練習	120分
第2回 各グレードのピアノ曲と弾き歌い発展段階の個人指導①	課題の曲を事前に個人練習し、授業後も指導を受けた点を繰り返し練習する	60分
第3回 各グレードのピアノ曲と弾き歌い発展段階の個人指導②	課題の曲を事前に個人練習し、授業後も指導を受けた点を繰り返し練習する	60分
第4回 各グレードのピアノ曲と弾き歌い発展段階の個人指導③	課題の曲を事前に個人練習し、授業後も指導を受けた点を繰り返し練習する	60分
第5回 各グレードのピアノ曲と弾き歌い発展段階の個人指導④	課題の曲を事前に個人練習し、授業後も指導を受けた点を繰り返し練習する	60分
第6回 各グレードのピアノ曲と弾き歌い発展段階の個人指導⑤	課題の曲を事前に個人練習し、授業後も指導を受けた点を繰り返し練習する	60分
第7回 前半習熟度確認に向けてのリハーサル	前半発表のための全曲練習	60分
第8回 ピアノ曲と弾き歌い曲の前半習熟度確認	演奏後の自分の技術をふり返り、反省点を今後の課題とすること	90分
第9回 各自の進度に応じたピアノ曲と弾き歌いの個人指導①	課題曲の事前練習及び、繰り返し練習を続け新たな技術を習得すること	60分
第10回 各自の進度に応じたピアノ曲と弾き歌いの個人指導②	課題曲の事前練習及び、繰り返し練習を続け新たな技術を習得すること	60分
第11回 各自の進度に応じたピアノ曲と弾き歌いの個人指導③	課題曲の事前練習及び、繰り返し練習を続け新たな技術を習得すること	60分
第12回 各自の進度に応じたピアノ曲と弾き歌いの個人指導④	課題曲の事前練習及び、繰り返し練習を続け新たな技術を習得すること	60分
第13回 各自の進度に応じたピアノ曲と弾き歌いの個人指導⑤	課題曲の事前練習及び、繰り返し練習を続け新たな技術を習得すること	60分
第14回 後半習熟度確認に向けてのリハーサル	後半発表のための全曲練習	60分
第15回 ピアノ曲と弾き歌い曲の後半習熟度確認	演奏後の自分の技術をふり返り、反省点を後期の課題とすること	90分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。 また、ピアノ演奏技能の習熟には、限らない努力が必要である。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、 実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。 前半後半2回の発表の状況で評価 前半習熟度45％ 後半習熟度45％ 授業への積極的関与10％		
課題に対してのフィードバック		
習熟度確認シートを使用し、学生の習得度をフィードバックしている。2回の発表形式型チェック後には、講評を行う。		
教科書・参考書		
ピアノ課題、弾き歌い課題冊子。幼児保育の歌とリズム（音楽之友社）※授業内で毎回使用する		